

ねん がつ よつか
2020年7月4日

ねんかんだい しゆじつ
年間第14主日

きくち いさおだい し きよう せつきよう
菊地 功大司教 ミサ説教

ことし はじ ころ いま かんせんしやう かくだい すうじつ とうきよう かんせんしや ぞうだい
今年の初め頃から今にいたるまで、感染症が拡大し、この数日は東京で感染者が増大
けいこう こんらん なか きようかい うご
傾向にあるものの、この混乱の中で、教会はどのように動いてきたのでしょうか。

もちろん、とうしよ かんせん よぼう ころが がつまつ ひ こうかい きんきゆう じ たいせんげん
当初から感染予防を心掛け、2月末からはミサも非公開となり、緊急事態宣言
で かつどう ていし きようかい こんかい じたい なか まつた
が出てからは、すべての活動が停止しました。ですから、教会は今回の事態の中で、全
うご ひようめんてき み
く動いていなかったと、表面的には見えてしまいます。

こんかい じたい おお ひと き き ちよくめん だいさいかい きんきゆう じ たい
今回の事態は、多くの人がいのちの危機に直面するということから、大災害の緊急事態
ひつてき じしん たんとう きようかい えんじよだんたい いま
に匹敵しています。わたし自身が担当している教会の援助団体カリタスジャパンでも、今
じたい さいかい きんきゆう じたい どうとう み きんきゆう ぼ きん し えんかつどう おこな
の事態は災害の緊急事態と同等と見なして、緊急募金と支援活動を行っています。

とはいえ、まずもってみつせつ みつしゆう みつべい さ じようきよう じゆうらい
とはいえ、まずもって密接、密集、密閉を避けなければならない状況にあって、従来
だいさいかい たいおう あつ いつしよ こうどう せいやく
の大災害への対応のように、ボランティアを集めて一緒に行動することには、制約があ
ります。じつさい ねん いらい せんだいきようく にほん きようかい せつち
実際、2011年以来、仙台教区において日本の教会が設置しているいくつかの
ボランティアベースでは、いちじてき ひと あつ ちゆうし え
ボランティアベースでは、一時的に人を集めることを中止にせざるを得ませんでした。
その意味で、い み じゆうらい かつどう かんせんしやう もと げんかい
その意味で、従来のような活動には、感染症の下では、限界があります。

しかし、どうじ しゃかいぜんたい じしゆく つづ なか こようかんきよう あつ か びよういん で
しかし、同時に、社会全体で自粛が続く中で、雇用環境も悪化し、また病院に出かけ
ることもままならない人が出たり、ひと で じゆうきよ うしな しょく うしな たす ひつよう
住居を失ったり、職を失ったりと、助けを必要
とする人は増加しました。ひと ぞうか

きようこうさま きようこうちよう い いんかい せつち こんかい じたい きようかい
教皇様は、教皇庁に COVID-19 委員会を設置され、今回の事態に教会がどのように
たいおう どうごうてきにんげんかいはつ ぶしよ こくさい きようりよく と く さだ
対応できるのか、統合的人間開発の部署や国際カリタスが協力して取り組むようにと定
められました。

ほつそく ほうこく き しゃかいけん せきにんしや すう ききよう さいしよ たん けんこうもんだい
その発足を報告する記者会見で、責任者のタクソン枢機卿は、「最初は単に健康問題

だったが、^{けいざい}経済、^{こよう}雇用、^{せいかつ}生活スタイル、^{しょくりょうあんぜんほしやう}食料安全保障、AI やインターネットのセキュリティ、^{せいじ}政治、^{せいふ}政府、^{せいさく}政策、^{けんきゆう}研究など、^{しんがた}新型コロナウイルス感染症が^{えいきやう}影響を与えなかった^{にんげん}人間の^{せいかつ}生活の^{そくめん}側面は何一つない。^{きやうこう}教皇フランシスコが^{おし}教えるように、『あらゆるものはつながり^{しやうちやう}あっている』を^の象徴している』と述べています。

わたしたちの^{じんせい}人生のすべての^{そくめん}側面が^{えいきやう}影響を受け、^{つねひごろ}常日頃から^{せいかつ}生活に^{こんなん}困難をかか^{ひと}えている人たちが、さらに^{おほ}大きな^{こんなん}困難に^{ちよくめん}直面し、また^{くに}国によっては、^{かんせんしやう}感染症のためだけではなく、^{しやう}そのようにして^{さまざま}生じた^{そくめん}様々な^{こんなん}側面の^{きき}困難によって、いのちの^{ちよくめん}危機に^{ひと}直面する人も^{たすう}多数おられます。

そのような^{なか}中で、^{かつどう}活動に^{こんなん}困難をかか^{じゆうらい}抱えながらも、^{おほ}従来のような^{かつどう}大きな活動としてではなく、^{ちい}小さな^{たんい}単位で、^{とき}時には^{こじんてき}個人的に、^{とき}時には^{となりきんじよ}隣近所で、^{たす}助けを^{もと}求めている^{ひと}人に^て手を^{さし}差し伸べようとする^{かつどう}活動が、^{すいめん}水面下で^{ひろ}広がっています。^{きんきゆうしえん}カリタスジャパンの^{たいしやう}緊急支援の対象も、^{じゆうらい}従来のような^{そしきてき}組織的な^{かつどう}活動もありますが、^{おほ}その多くは^{こじんてき}個人的な^{しえん}支援を^{ちゆうしん}中心とした^{しやうき}小規模な^ふものが増えて^いいます。

すなわち、わたしたちは、この^{こんなん}困難な^{じやうきやう}状況の中にあつて、^な隣人と^{りんじん}互いに^{たが}助け合う^{たす}こと^あの^{たいせつ}大切さを^{にんしき}あらためて^{しん}認識しています。

^{ぼうとう}冒頭に^ふ触れたように、^{きやうかい}教会も、^{たし}確かに^{かつどう}すべての活動が^{ていし}停止していたものの、^{しんと}信徒の^{みな}皆さんの^{こじん}個人レベルでは、^{さまざま}様々な^{かつどう}活動に取り^{とく}組まれる^{ひと}人が^{おほ}多くいると^{きやうく}聞いています。^{きやうく}教区でも、^{しょくりょうしえん}食料支援や^{がくしゆうしえん}学習支援など、^{じみち}地道な^{しえん}支援活動を^{さき}支えたり、^{じゆうらい}従来から^{おこな}行っている^{CTIC}CTICを^{つう}通じた^{がいこくせき}外国籍の方々への^{かたがた}支援を^{しえん}継続して^{けいぞく}います。

わたしたち^{きやうかい}教会の^{やくわり}役割は、^{ひと}人と^{ひと}人との^{であ}出会いの^{やす}なかにあつて^{あた}安らぎを^{あた}与えることです。^{ふくいん}福音に「^{おも}重荷を負う^{おもの}者は、^{だれ}誰でも^きわたしの^{やす}もとへ^い来なさい。休ませ^{しゆ}てあげよう」と^い言う^{しゆ}主イエスの^{ことば}言葉が^{しる}記されています。^{きやうかい}教会は、^{おも}重荷を負^おわせる^ば場ではなく、^{やす}安らぎを^{あた}与える^ば場です。そしてそれは、^{きやうかい}教会という^{たても}建物が^{やす}安らぎの^ば場である^{とど}ということに^{とど}留まらず、^{わた}わたしたち^{じしん}自身が^{やす}安らぎを^{あた}与える^い存在である^いという意味でも^くあります。なぜならば、^いいつも^く繰り返^くしているように、^{かえ}教会とは^{きやうかい}この^{たても}建物の^{きやうどうたい}ことではなくて、^{かたちづく}共同体を^{しゆ}形作り^{しゆ}主イエス

からだ かたちづく
の体を形作っている、わたしたち一人ひとりのことだからです。わたしたち一人ひとりが、社会しやかいにあって、安らぎやすを与える存在あつでありたいと思います。

ざんねん
残念ながら、教会きようかいにあって、安らぎやすではなくて苦しみを生み出してしまっている事実じじつが存在そんざいします。それは否定ひていできない事実じじつであります。教会きようかいに集まっているのは天使てんしのようひとな人ばかりではなく、わたしも含めてすべてが罪つみの重荷おもを抱え欠点かかを抱えた不十分な人間ふじゆうぶんです。ですから、集まっているだけで、どうしてもそこには対立たいりつや争いあらし、無理解むりかいや排除はいじよが生しょうじてしまいます。

しばしばわたしたちの思いおも、すなわち人間にんげんの知恵ちえや賢かしこさは、自己中心じこちゆうしんの世界せかいを生み出し、まるで自分の周りに防御壁ぼうぎよへきを築き上げるようにして、そこに近づいてくる人ひとを傷つけている。ですから、わたしたちは常に、自分たちじぶんに与えられている使命しめいを思い起こさなくてはなりません。

きようかい やす
教会きようかいは安らぎを与える場あつであり、重荷おもを与える場あつではない。そして教会きようかいとは誰かのことではなく、自分じぶんこそがその教会きようかいである。

かんしや さいぎ なか
感謝かんしやの祭儀さいぎの中でご聖体せいたいをいただいて主しゆと一致いつちするとき、わたしたちの心しんには神かみの霊れいが宿ります。そのときわたしたちは、どのような生きる道みちを選ぶのでしょうか。キリストぞくに属する者ものとして、わたしたちに与えられている務めつとは、「キリストかんがのように考え、キリストあいなのように話し、キリストおこなのように行い、キリストあいのよう愛そう。力ちからの限りかぎ(典礼聖歌390)」ではないでしょうか。

ちち かみ あた
父ちちである神かみが与えられた最高さいこうのたまものであるいのちを守ることは、最もまも大切な愛徳もつとの業たいせつであります。残念あいとくながら、この困難わざな時期ににあって、教会きようかいの中なかでも、教会きようかいの外そとでも、その最ももつと大切な愛徳たいせつの業あいとくを二の次に考えるような言動わざが見られました。愛徳げんどうの業みのうちあいとくに、互わいに支え合うことこそが、安らぎやすを与える教会あつとして、今必要きようかいな態度いまひつようです。

きようこう
教皇きようこうフランシスコは、昨年訪日さくねんほうにちされて東北とうほくの被災者ひさいしやと会あわれたとき、次つぎのように話はなされました。

「わたしたちにもっとも影響する悪の一つは、無関心の文化です。家族の一人が苦しめば家族全員がともに苦しむという自覚をもてるよう、力を合わせる事が急務です。課題と解決策を総合的に引き受けることのできる唯一のものである、きずなという知恵が培われないかぎり、互いの交わりはかありません。わたしたちは、互いに互いの一部なのです。」

わたしたちはたまものであるいのちを守ることを大切にする教会でありたいと思えます。教皇の呼びかけに応え、力をあわせ、互いの交わりの中で支え合い、重荷を負わせることなく、安らぎを提供する教会であることを目指しましょう。